

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 16 年 11 月 18 日 (2004.11.18)

【公表番号】特表 2000-504716 (P2000-504716A)

【公表日】平成 12 年 4 月 18 日 (2000.4.18)

【出願番号】特願 平 9-529120

【国際特許分類第 7 版】

A 6 1 K 45/00
 A 6 1 P 7/02
 A 6 1 P 9/04
 A 6 1 P 9/00
 A 6 1 P 9/10
 A 6 1 K 31/40
 A 6 1 K 31/4035
 A 6 1 K 31/404
 A 6 1 K 31/519
 A 6 1 K 38/00
 A 6 1 K 38/55
 A 6 1 K 39/395
 C 0 7 K 16/24

【F I】

A 6 1 K 45/00
 A 6 1 K 31/00 6 0 7 A
 A 6 1 K 31/00 6 0 9 B
 A 6 1 K 31/00 6 0 9
 A 6 1 K 31/00 6 0 9 F
 A 6 1 K 31/40
 A 6 1 K 31/40 6 0 6
 A 6 1 K 31/40 6 0 7
 A 6 1 K 31/505 6 0 6
 A 6 1 K 39/395 D
 A 6 1 K 39/395 N
 C 0 7 K 16/24
 A 6 1 K 37/02
 A 6 1 K 37/64

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 2 月 10 日 (2004.2.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成16年2月10日

特許庁長官 殿



1. 事件の表示

平成9年特許願第529120号

2. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

名称 ザ ケネディー インスティテュート オブ
リユーマトロジー

3. 代理人

居 所 〒540-6591 大阪市中央区大手前1丁目7番31号
OMMビル5階 私書箱26号 細田国際特許事務所

TEL 06(6910)6733

氏 名 (9583)弁理士 細田 芳徳



4. 補正対象書類名

明細書

5. 補正対象項目名

(1) 特許請求の範囲



6. 補正の内容

(1) 別紙のとおり、特許請求の範囲を訂正する。

以上

方 式
審 査

(別紙)

請求の範囲

1. 心臓血管障害の治療方法又は予防方法に使用するための腫瘍壊死因子アンタゴニストを含有する組成物。

2. 心臓血管障害が、急性心筋梗塞、深部静脈血栓症及び血栓静脈炎からなる群より選ばれる請求項1記載の組成物。

3. 心臓血管障害が急性心筋梗塞である請求項2記載の組成物。

4. 脳血管障害の治療方法又は予防方法に使用するための腫瘍壊死因子アンタゴニストを含有する組成物。

5. 脳血管障害が卒中である請求項4記載の組成物。

6. 血栓障害の治療方法又は予防方法に使用するための腫瘍壊死因子アンタゴニストを含有する組成物。

7. 血栓障害が、血栓塞栓症、虚血症、卒中、急性心筋梗塞、深部静脈血栓症及び血栓静脈炎からなる群より選ばれる請求項6記載の組成物。

8. 腫瘍壊死因子アンタゴニストが、抗腫瘍壊死因子抗体又はその断片である請求項7記載の組成物。

9. 抗体が、キメラ抗体、ヒト化抗体(humanized antibody)及び再表面化抗体

(resurfaced antibody) 又はその断片からなる群より選ばれる請求項 8 記載の組成物。

10. 抗体が、約 87～108 及び約 59～80 からなる群より選ばれる hTNF α のアミノ酸の 1 以上と結合する請求項 9 記載の組成物。

11. 抗体が A2 のエピトープと結合する請求項 9 記載の組成物。

12. 抗体がキメラ抗体である請求項 9 記載の組成物。

13. 抗体が、約 87～108 及び約 59～80 からなる群より選ばれる hTNF α のアミノ酸の 1 以上と結合する請求項 12 記載の組成物。

14. 抗体が cA2 のエピトープと結合する請求項 12 記載の組成物。

15. 抗体が cA2 である請求項 14 記載の組成物。

16. 腫瘍壊死因子アンタゴニストが、腫瘍壊死因子と結合するレセプター分子、誘導体又はそれらの断片である請求項 7 記載の組成物。

17. レセプター分子が、p55 腫瘍壊死因子レセプター及び p75 腫瘍壊死因子レセプター又はそれらの機能性部分からなる群より選ばれる請求項 16 記載の組成物。

18. レセプター分子が、p55 腫瘍壊死因子レセプターの細胞外ドメイン及び p75 腫瘍壊死因子レセプターの細胞外ドメインからなる群より選ばれる請求項

16記載の組成物。

19. レセプター分子がTNFレセプター多量体分子又はその機能性部分である請求項16記載の組成物。

20. 腫瘍壊死レセプター多量体分子が、1以上のポリペプチドリンカーを介して結合された腫瘍壊死因子レセプターの2以上の細胞外ドメインの全部又は機能性部分を含有してなる請求項19記載の組成物。

21. レセプター分子が免疫レセプター融合分子又はその機能性部分である請求項16記載の組成物。

22. 免疫レセプター融合分子が腫瘍壊死因子レセプターの全部又は機能性部分と、免疫グロブリン鎖とを含有してなる請求項21記載の組成物。

23. 腫瘍壊死因子アンタゴニストが、腫瘍壊死因子の合成又は腫瘍壊死因子の放出を予防又は阻害する請求項7記載の組成物。

24. 腫瘍壊死因子アンタゴニストがホスホジエステラーゼインヒビターである請求項23記載の組成物。

25. ホスホジエステラーゼインヒビターが、ペントキシフィリン及びロリプラム(rolipram)からなる群より選ばれる請求項24記載の組成物。

26. 腫瘍壊死因子アンタゴニストが、サリドマイド及びテニダップ(tenidap)からなる群より選ばれる請求項23記載の組成物。

27. 腫瘍壊死因子が、A2b アデノシンレセプターアゴニスト及びA2b アデノシンレセプターエンハンサーからなる群より選ばれる請求項23記載の組成物。

28. 腫瘍壊死因子アンタゴニストが腫瘍壊死因子レセプターのシグナル伝達を予防又は阻害する請求項7記載の組成物。

29. 個体の血漿フィブリノーゲンを減少させる方法に使用するための腫瘍壊死因子アンタゴニストを含有する組成物。

30. 腫瘍壊死因子アンタゴニストが、抗腫瘍壊死因子抗体又はその断片である請求項29記載の組成物。

31. 抗体が、キメラ抗体、ヒト化抗体及び再表面化抗体又はその断片からなる群より選ばれる請求項30記載の組成物。

32. 抗体が、約 8.7×10^8 及び約 5.9×10^8 からなる群より選ばれるhTNF α のアミノ酸の1以上と結合する請求項31記載の組成物。

33. 抗体がA2のエピトープと結合する請求項32記載の組成物。

34. 抗体がキメラ抗体である請求項31記載の組成物。

35. 抗体が、約 8.7×10^8 及び約 5.9×10^8 からなる群より選ばれるhTNF α のアミノ酸の1以上と結合する請求項34記載の組成物。

36. 抗体がc A 2のエピトープと結合する請求項34記載の組成物。

37. 抗体がc A 2である請求項36記載の組成物。

38. 腫瘍壊死因子アンタゴニストが、腫瘍壊死因子と結合するレセプター分子、誘導体又はそれらの断片である請求項29記載の組成物。

39. レセプター分子が、p 55腫瘍壊死因子レセプター及びp 75腫瘍壊死因子レセプター又はそれらの機能性部分からなる群より選ばれる請求項38記載の組成物。

40. レセプター分子が、p 55腫瘍壊死因子レセプターの細胞外ドメイン及びp 75腫瘍壊死因子レセプターの細胞外ドメインからなる群より選ばれる請求項38記載の組成物。

41. レセプター分子が腫瘍壊死因子レセプター多量体分子である請求項40記載の組成物。

42. 腫瘍壊死因子レセプター多量体分子が、1以上のポリペプチドリンカーを介して結合された腫瘍壊死因子レセプターの2以上の細胞外ドメインの全部又は機能性部分を含有してなる請求項41記載の組成物。

43. レセプター分子が、免疫レセプター融合分子又はその機能性部分である請求項40記載の組成物。

44. 免疫レセプター融合分子が腫瘍壊死因子レセプターの全部又は機能性部分と、免疫グロブリン鎖とを含有してなる請求項43記載の組成物。

45. 腫瘍壊死因子アンタゴニストが、腫瘍壊死因子の合成又は腫瘍壊死因子の放出を予防又は阻害する請求項29記載の組成物。

46. 腫瘍壊死因子アンタゴニストがホスホジエステラーゼインヒビターである請求項45記載の組成物。

47. ホスホジエステラーゼインヒビターが、ペントキシフィリン及びロリプラムからなる群より選ばれる請求項46記載の組成物。

48. 腫瘍壊死因子アンタゴニストが、サリドマイド及びテニダップからなる群より選ばれる請求項45記載の組成物。

49. 腫瘍壊死因子アンタゴニストが、A2bアデノシンレセプターアゴニスト及びA2bアデノシンレセプターエンハンサーからなる群より選ばれる請求項45記載の組成物。

50. 腫瘍壊死因子アンタゴニストが、腫瘍壊死因子レセプターのシグナル伝達を予防又は阻害する請求項29記載の組成物。

51. 血管性疾患、心臓血管障害、血栓障害、血漿フィブリノーゲンの減少により治療され得る疾患又は病状のうちの一つを治療する医薬の製造のための、腫瘍壊死因子アンタゴニストの使用。 —